

慶應義塾に関連した出版物や教職員の最新著書などを中心に、本に関する情報をお届けします。

井筒哲学の深みへ 読者を導く意欲作

『井筒俊彦——叡智の哲学』

若松英輔著

慶應義塾大学出版会 / 3570円 (2011年5月)



哲学者、言語学者、イスラーム学者としてその名を知られる井筒俊彦。没後なお

世界の学究の徒を魅了し続ける彼の人物像と思想に、真正面から迫ったのが本書だ。

井筒の著作は難解とされ、通読を諦めてしまう者も多かった。本書は彼の生涯を大きく三期に分け、それぞれの期間を象徴する著作を中心に徹底的に読み込み、実証的に論じることによって、読者を井筒哲学の深みへと導く。準備・執筆に長い歳月をかけた著者渾身の意欲作であり、世界初の長編「井筒俊彦論」である。

『井筒俊彦全集』全十二巻のうち、一・二・三巻が昨年、慶應義塾大学出版会から刊行された。興味のある方はこちらも併せて読んでみてほしい。

教職員執筆の最新刊

●坂井豊貴（経済学部准教授）著

『マーケットデザイン——最先端の実用的な経済学』ちくま新書 / 819円 (2013年9月)

●柴田利雄（高等学校名譽教諭）著

『やさしく語る「古事記」ベスト新書 / 860円 (2013年9月)

●巽孝之（文学部教授）著

『モダニズムの惑星 英米文学思想史の修辭学』

岩波書店 / 3150円 (2013年10月)

●松岡由幸（理工学部教授）ほか編著

『創発デザインの概念』共立出版 / 3150円 (2013年10月)

●慶應義塾大学ビジネス・スクール著

『経営人材を育てる——CEO人材欠乏症の日本を変える』

●吉田小五郎（元幼稚舎長）著

慶應義塾大学出版会 / 1890円 (2013年10月)

●吉田小五郎随筆選『慶應義塾大学出版会 / 31500円 (2013年11月)』

慶應義塾この一冊

『現代語訳 文明論之概略』

福澤諭吉著 齋藤孝訳
ちくま文庫 / 903円 (2013年2月)



福澤諭吉の代表著作の一つであり、近代日本思想史上の最重要作と称される『文明論之概略』が、メディアでも活躍中の齋藤孝氏によって現代語訳された。明治維新後の混乱期を冷静に見つめ、文明の本質を論じ、日本の果たすべき最優先課題は「自国独立」であると説く本書。福澤先生の鋭くかつリズムミカルな筆致はそのままだ、平易な現代語訳と原文にはない小見出しの挿入で、非常に読みやすく仕上がっている。価格・サイズともに手頃で若者も気軽に手に取れるだろう。ぜひ鞆にのびせてほしい一冊。